

2024年11月20日（水）
アセック廃棄物セミナー



愛知県におけるサーキュラーエコノミー 推進の取組について

愛知県 環境局 資源循環推進課 循環グループ
課長補佐 松山 純也



ご説明の流れ

1. 資源循環に係る取組の経緯
2. サーキュラーエコノミー推進プランの策定
3. プランに基づく施策と主な取組
 - (1) あいち資源循環推進センターを拠点とした総合的支援
 - (2) 地域特性を踏まえた6つの推進モデル
 - (3) 動静脈の産・官・学からなる7つのプロジェクトチーム
4. 取組事例の紹介

⇒ 「事業者マッチング」や「新たな取組のPR」等の支援を行っています。

愛知県の資源循環に関する取組の経緯

| | |
|------------|--|
| 2003年3月 | あいち資源循環型社会形成プラン策定 循環型社会の形成に向けた県の構想を示し、事業者、行政の役割と取組方向を明記 |
| 2004年9月 | あいちエコタウンプラン策定 環境と経済が好循環するものづくり県を目指して、3Rビジネスを促進 ⇒2014年3月 新・あいちエコタウンプランへ改定 |
| 2005年3月～9月 | 「自然の叡智」をテーマにした愛知万博開催 |
| 2010年10月 | 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催 |
| 2014年11月 | ESDユネスコ世界会議開催 |
| 2017年3月 | あいち地域循環圏形成プラン 本県のポテンシャルを生かした新たな資源循環モデルの展開、未利用資源の有効活用を促進 |

2030年SDGs達成やグローバル課題の克服に向け、これまで進めてきた3Rの取組を踏まえ、生産から考えるサーキュラーエコノミーへ

あいちサーキュラーエコノミー推進プラン

【社会的課題】

- 資源循環の重要性の増大
(資源消費量・廃棄物量の増加)
- カーボンニュートラル (CN) 実現に向けたサーキュラーエコノミー (CE) の取組の重要性
- プラスチックや太陽光パネル等の社会課題の顕在化

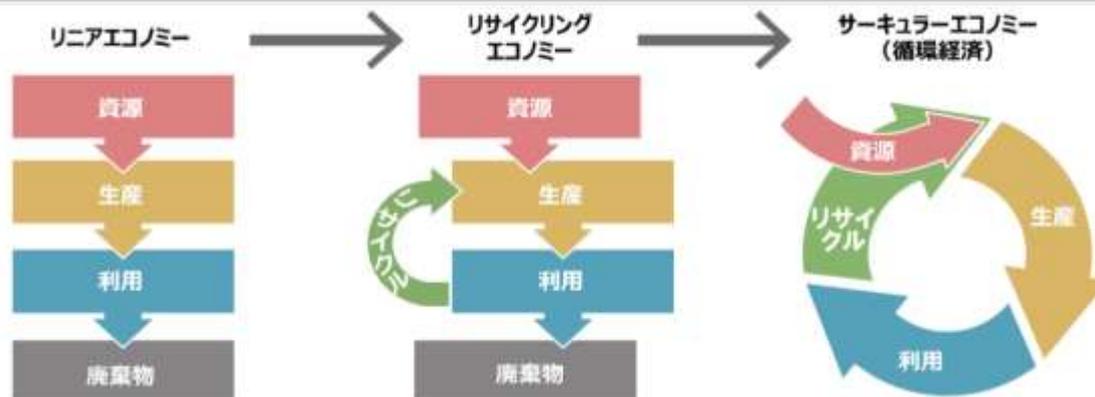
【本県のポテンシャル】

- 全国一の産業集積県

| 産業 | 項目 | 金額 | 順位 |
|-----|---------|---------|------|
| 製造業 | 製造品出荷額等 | 43.9兆円 | 全国1位 |
| 商業 | 年間商品販売額 | 39.4兆円 | 全国3位 |
| 農業 | 農業産出額 | 2,922億円 | 全国8位 |

- 緑豊かな土地条件
(県土の約42.1%が森林)

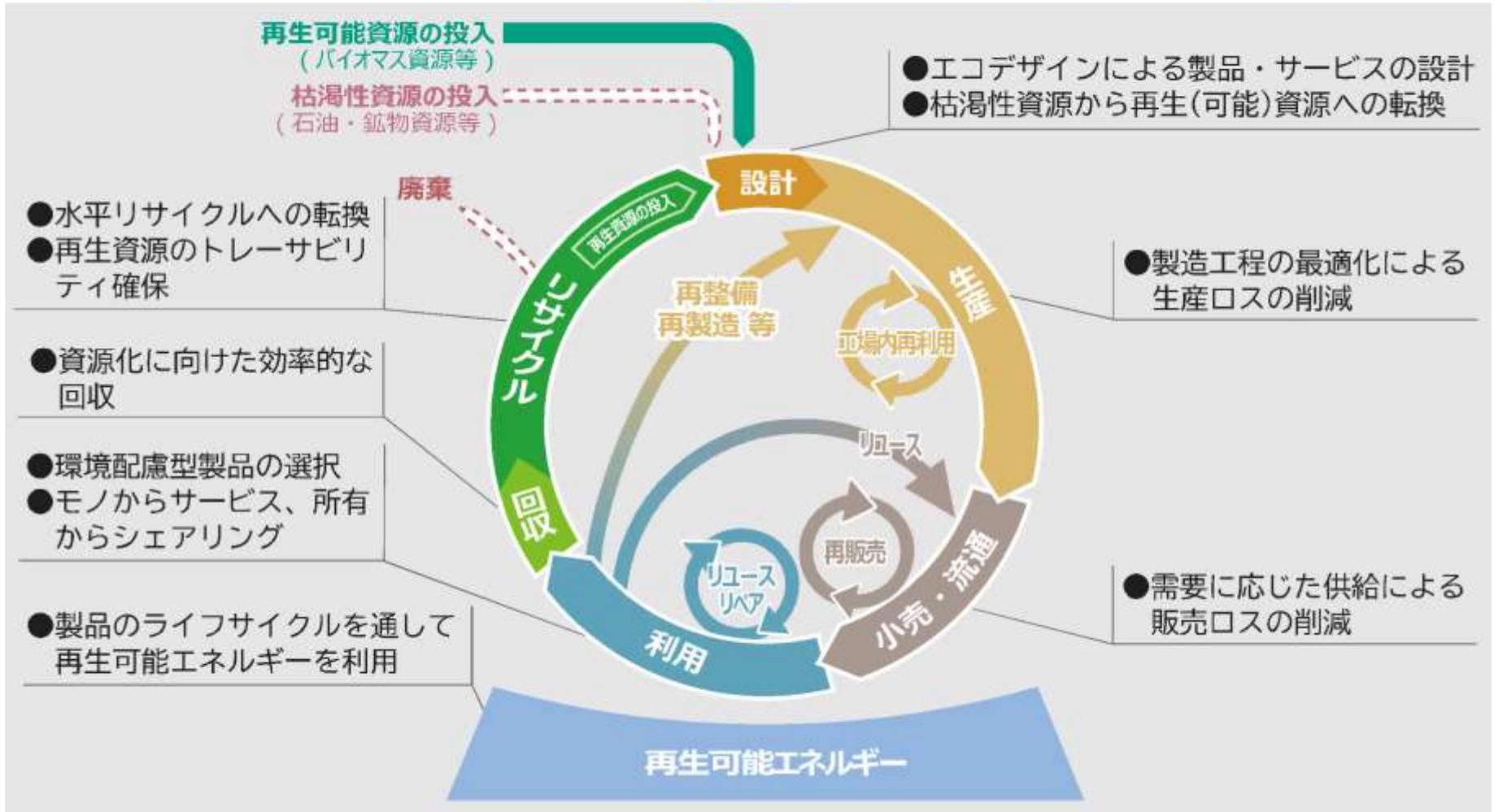
循環ビジネスを中心とした本県の資源循環に関する
施策や取組を示す計画として2022年3月に策定



サーキュラーエコノミーによる循環型社会の形成

資源投入量の最小化

廃棄物発生量の最小化



2031年までの10年間をCEへの移行期間として、ライフサイクル全体での徹底した資源循環を目指す。

プランに基づく施策と主な取組

施策1 CE推進モデルの展開

- ・ サーキュラーエコノミー推進モデルの創設
- ・ プロジェクトチーム (PT) の設立
- ・ バリューチェーンなど
事業者連携による取組を支援



施策2 循環ビジネスの振興支援

- ・ 循環ビジネス創出コーディネーターによる総合的支援
- ・ 循環型社会形成推進事業費補助金による設備導入や事業化検討の支援
- ・ 展示会を通じた循環ビジネスの普及展開支援、愛知環境賞の表彰



施策3 人材育成・情報発信

- ・ あいち環境塾によるリーダー育成
- ・ CEスターティングブック、あいち資源循環ナビ、あいち資源循環センター展示コーナーによる普及啓発



施策4 多様な主体との連携

- ・ マッチング支援による事業者連携の促進
- ・ サークュラーエコノミー型ビジネス創出研究会の開催

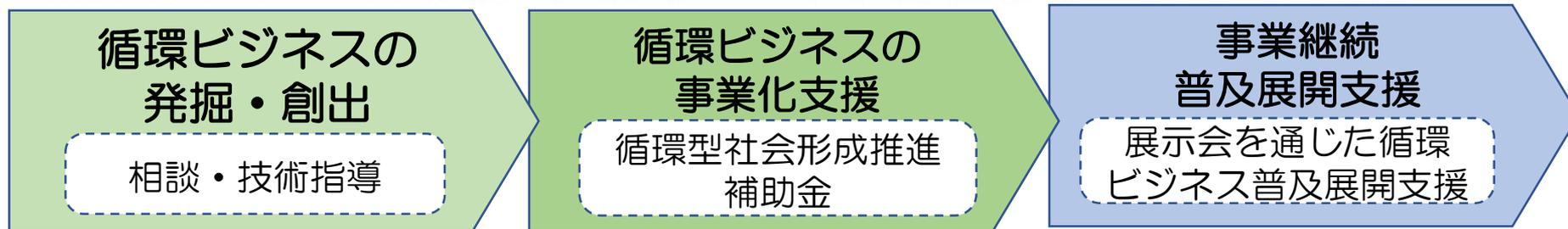


「あいち資源循環推進センター」を拠点として、4つの施策と主な取組を進める

循環ビジネスの振興支援①

～あいち資源循環推進センターについて～

- 2006年に産学行政の協働拠点として設置（愛知県庁西庁舎7階）。循環ビジネスの発掘、事業化から事業継続まで一貫して支援。



- 環境技術や循環ビジネスの豊富な知識・経験を有する「循環ビジネス創出コーディネーター」を配置。



センターでの事業者相談の様子



事業場での現地相談会

年間約400件（150事業者）の相談に対応している

循環ビジネスの振興支援②

愛知県循環型社会形成推進事業費補助金 (今年度応募終了)

- CEへの転換や3Rの高度化に向け、先導的・効果的な循環ビジネスの事業化の検討、エコデザインを施した製品製造設備やリサイクル設備等の整備（リサイクル、排出抑制、プラスチック関係設備整備）を実施する事業者に対する補助。

<補助事業の内容>

| 区分 | | 限度額 | 補助率 | 審査内容 |
|---------------|----------|---------|--|---|
| 設備整備事業 | リサイクル関係 | 5,000万円 | 大企業1/3以内、 中小企業1/2以内 ※CE推進プランプロジェクトチームの事業においては、 大企業1/2以内、中小企業 2/3以内 | <ul style="list-style-type: none"> ・財務審査 ・事業審査 先導的・独創的な技術・システム、CO2排出量削減等の環境負荷低減効果、事業継続性 |
| | 排出抑制関係 | | | |
| | プラスチック関係 | | | |
| 循環ビジネス事業化検討事業 | | 500万円 | | |

愛知環境賞 (今年度応募終了)

- CEやCNに関する取組など、資源循環や環境負荷低減を推進する先駆的で効果的な県内の<技術・事業><活動・教育>を表彰。
- 今年度は8月～9月に募集。10月～12月に選考審査、2月に表彰式を予定。



表彰式の様子

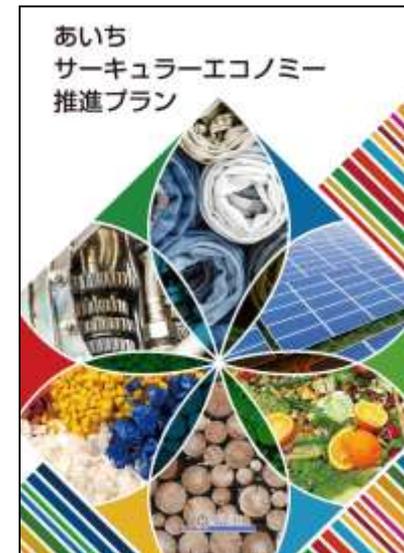
サーキュラーエコノミー推進モデル

本県の地域特性や産業のポテンシャルを生かし、プラスチックや太陽光パネルなど、社会課題を解決する6つのリーディングモデルを創設

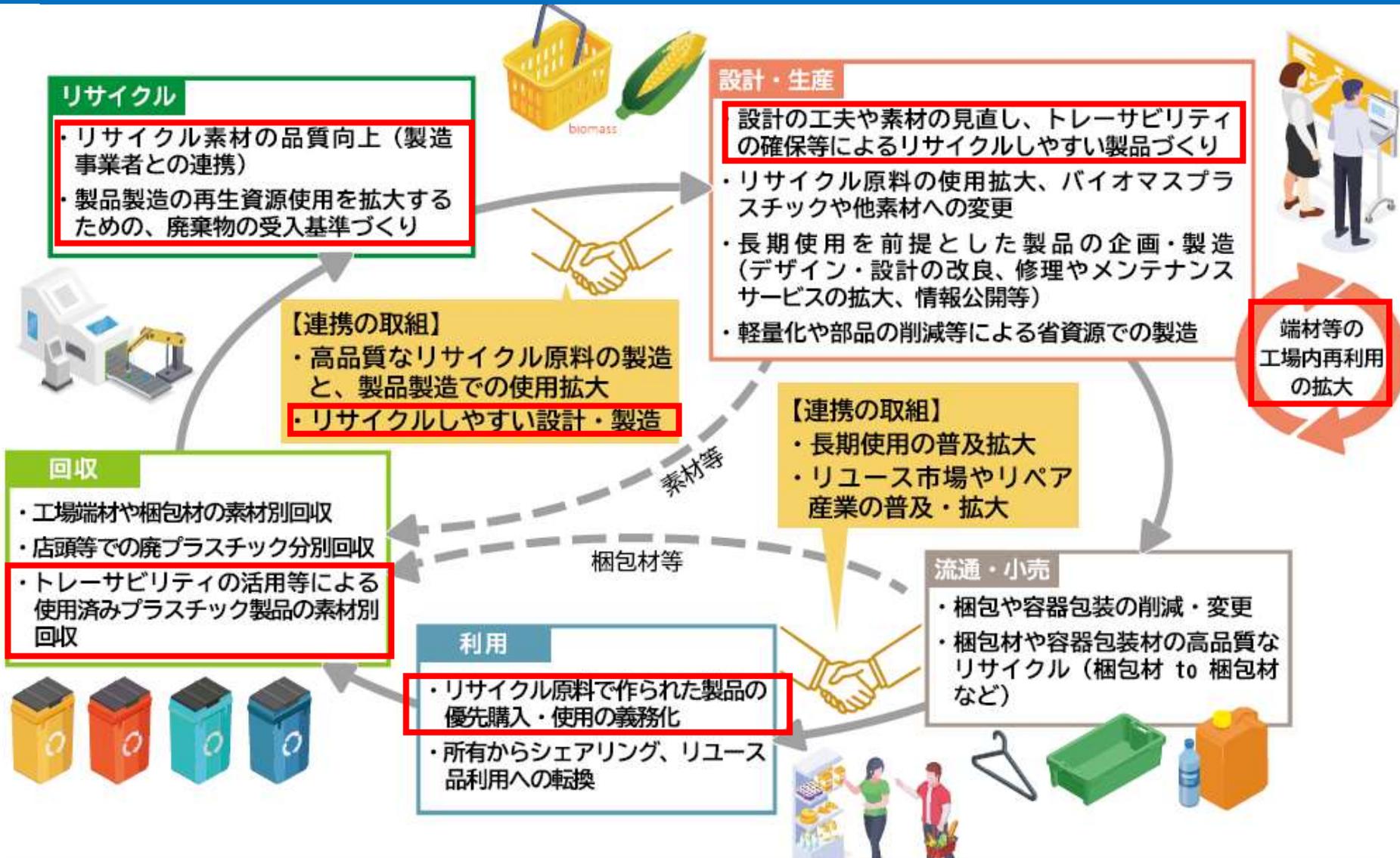
1. プラスチック
2. 太陽光パネル
3. 繊維・衣類
4. リペア・リビルド
5. 食品
6. 未利用木材

県内産廃の廃プラスチックの循環利用率は81%であり、内訳はマテリアル利用37%、ケミカル利用2%、サーマル利用42%（2020年度調査）

再生可能エネルギーの固定価格買取制度では2019年9月末までの導入容量が全国3位、うち住宅用太陽光発電は全国1位。



プラスチック循環利用モデル



廃プラスチックの MATERIAL 利用、ケミカル利用を高めつつ、プラスチックの価値を維持する技術や仕組みを構築する。

あいちサーキュラーエコノミー推進PT

推進モデルの具体化のため、事業者、有識者、行政からなるプロジェクトチーム（PT）を2023年1月に設立し、5年を目処に事業化を目指し取組中

| | | |
|----------------------|--------------------------------|-------------|
| PT①(廃プラスチック循環利用) | 廃プラスチックのリアルリサイクルの拡大 | 19者 (17) |
| PT②(バイオマスプラスチック循環利用) | プラスチック代替となるバイオマスプラスチックの普及拡大 | 14者 (9) |
| PT③(太陽光パネル循環利用) | 2040年頃の大量廃棄を見据えた太陽光パネルの循環利用 | 15者 (12) |
| PT④(繊維・衣類循環利用) | 資源回収されていない衣類の再資源化 | 11者 (9) |
| PT⑤(リペア・リビルド普及) | リペア・リビルド技術の活用による設備・部品の長寿命化 | 8者 (6) |
| PT⑥(廃食用油利活用) | 廃食用油をバイオ燃料として活用するリサイクルシステムの確立 | 11者 (9) |
| PT⑦(木質資源利活用) | 木質廃棄物や未利用森林資源を有効利用するビジネスの創出・拡大 | 13者 (10) |



設立合同会議



PT会議の様子

※ 参画者数は2024年10月末現在（計延べ91者）、括弧内は設立当初

【オブザーバー】 三井住友信託銀行、経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所

取組事例 (PT① プラスチック循環利用)

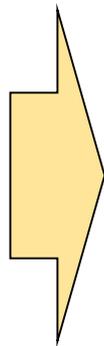
リサイクルが困難な混合プラスチック等の再生原料化の促進

<メンバー> 愛知プラスチック工業(株)、(株)アルペン、いその(株)、永一産商(株)、永興物産(株)、川上産業(株)、三陽化学(株)、(株)ダイセキ、大和エネルギー(株)、中部電力(株)、(株)動力、トーエイ(株)、TOPPAN(株)、日東工業(株)、(有)原野化学工業所、(有)古谷商店、ホーユー(株)、三井屋工業(株)、岡崎市 (19者)

<アドバイザー> 東京大学大学院 工学系研究科 教授 梅田 靖



混合プラスチック等



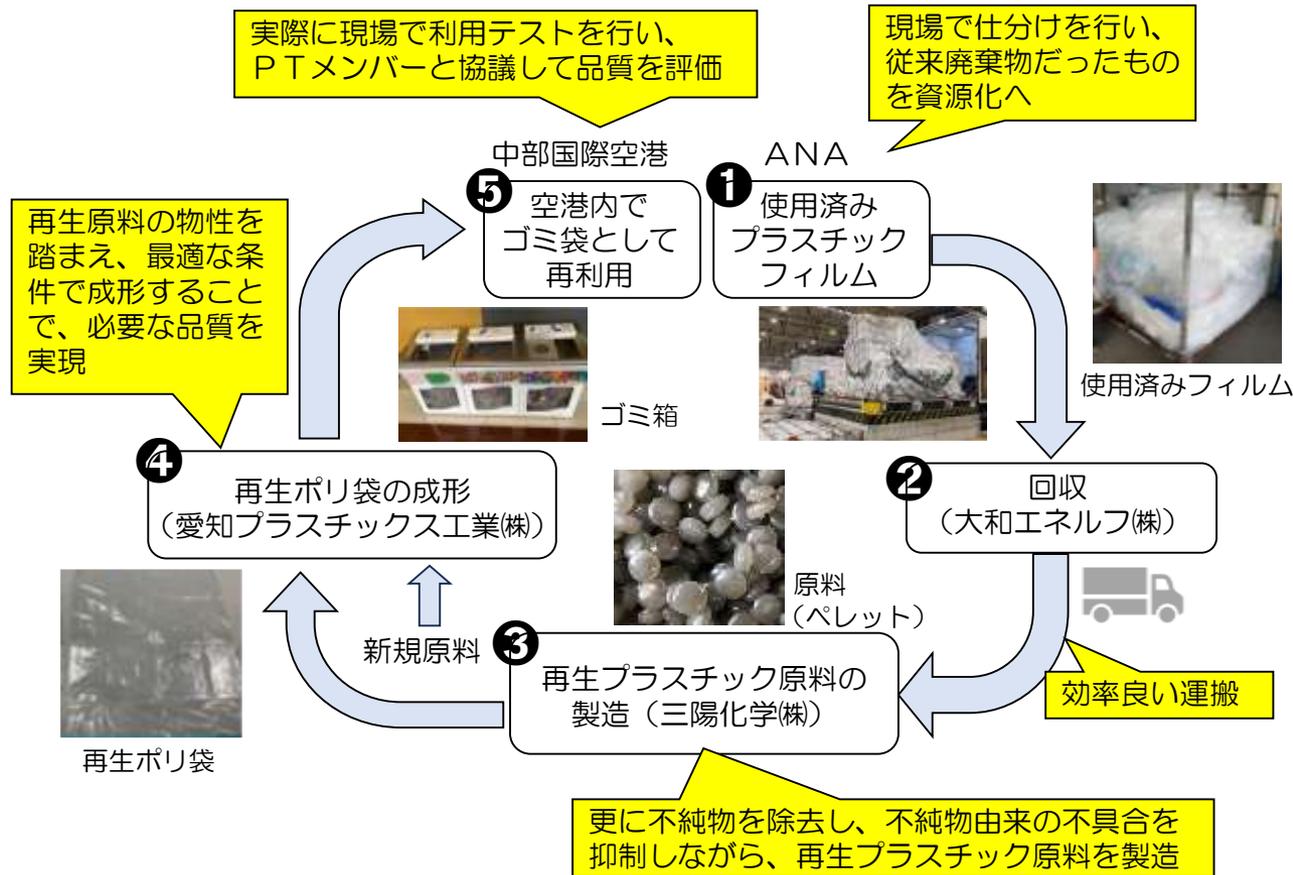
再生原料化



製品化

取組事例 (PT① プラスチック循環利用)

- 中部国際空港(株)とANA中部空港(株)が、PTと連携して、空港(ANA)で発生したプラスチックを原料として製造した再生ポリ袋を、セントレアのごみ袋として利用する取組。
- 排出事業者、回収事業者、原料製造者、製品製造者、製品利用者のバリューチェーン全体で再生原料を使用した製品化が実現



メディア向け発表会の様子



ゴミ袋をゴミ箱に取り付ける様子

取組事例 (PT② バイオマスプラスチック循環利用)

愛知発ローカルSDGs達成プロジェクト「地域のオリジナリティあふれるバイオマスプラスチック製品の開発と利用促進」

＜メンバー＞ アサヒユウアス(株)、(株)おとうふ工房いしかわ、(株)小栴屋、(一社)循環資源再生利用ネットワーク、(株)大洋プラスチック工業所、(株)メニコン、トルムスイニシエイト(株)、(株)ハーツ、(株)FabCafe Nagoya、三井化学(株)、金城学院大学、岡崎市、蒲郡市、岩倉市（14者）
＜アドバイザー＞ 金城学院大学 生活環境学部 教授 弓立 順子

【バイオマス素材】



木材



果物（みかん等）



ブドウ絞りかす



茶かす



コーヒーかす



貝殻

【バイオプラ製品】



ループタイ



トレー



タンブラー



ボトル



プランター

取組事例 (PT④) 繊維・衣類循環利用

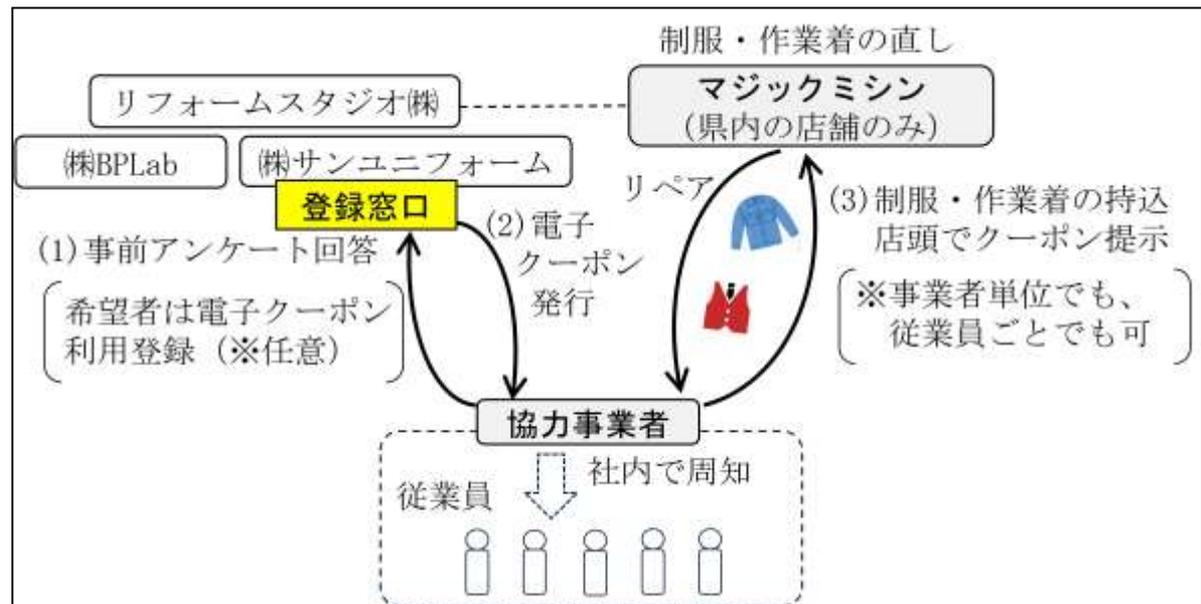
作業着の効率的な回収・選別、リサイクラー等と連携した循環の仕組みの構築

〈メンバー〉 (株)エス・エヌ・テー、(株)サンユニフォーム、(株)シキボウ江南、(株)ダイセキ、高末(株)、豊島(株)、hap(株)、(株)BPLab、矢作建設工業(株)、岡崎市、蒲郡市 (11者)

〈アドバイザー〉 京都工芸繊維大学 名誉教授 木村 照夫

○ 企業制服・作業着を長寿命化する「リペア」サービスの拡充に向けた実証事業を開始。

○ リペアのニーズ等に係るアンケート調査を行うとともに、一部店舗でのリペアに利用可能な割引クーポンを活用した市場調査を行うことで、長寿命化の取組の浸透を図る。



【実証事業のイメージ図】



サーキュラーエコ/ミー
あいち



メッセナゴヤ（2024年10月30日）

ご清聴ありがとうございました。